

抑制きゅうり栽培

月 旬	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12																																													
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																																											
主 な 作 業																																																																															
作 業 の ポ イ ン ト	<p>1.品種 穂木 オナー、エクセレント2号、なおよし、北宝2号 台木 一輝1号、エキサイト一輝、ゆうゆう一輝(白軸)</p> <p>2.播種期 7月下旬～8月中旬</p> <p>3.育苗管理 気温27～28℃になるようにビニール等で密閉遮光しておくど2日程度で発芽する。発芽後に日焼けを起こさないように徐々に光にあてる。 播種後10日程度を目安に接木をする。接木方法は高温期なので呼び接ぎが管理しやすい。接木後速やかに移植する。 移植床については、移植の2～3日前より十分な灌水を行い、ビニールマルチをして水分を保っておく。 移植した苗は十分に遮光して活着を促す。高温時なのでトンネル内の温度が高くなりがちであるが27℃を目標とする。 接木2日後には夕方からトンネルの換気を行い、3日後には徐々に光にあてる。 接木6日後には穂木の胚軸をつぶし、8～10日後に切斯するこの間、しおれる時は薬水をきったり、遮光を行う。</p> <p>4.施肥 土づくり 堆きゅう肥 10a当たり1,500kg 土壌診断をして、りん酸、塩基類などの養分状態を改善する。 生育初期が高温期にあたり、葉が大きく節間が長くなりやすいので、基肥を極力抑え、追肥主体にする。 施肥量は10a当たり窒素15kg、りん酸10kg、加里15kgを基準とする。</p> <p>施肥例 (10a当たり) ・緩効性肥料主体 (基肥) CDU入りBB-S444号(14-14-14) 30～40kg (追肥) 尿素複合液肥2号(10-4-8) 50kg×2回</p>												<p>5.灌水と管理 灌水 定植後は活着(葉色が淡くなってきたら活着した事とする)するまで萎れさせないようにこまめに灌水する。萎れたときは遮光に頼らず薬水で萎れを回復させる。過度の遮光は葉からの蒸散を抑制し萎れ防止となるが、日陰で育つために葉肉が薄くなり、病害の原因となるので注意する。 高温条件で過繁茂になり易いので活着後は徐々に水をしばり樹をしめていく。主枝を摘心するまで土壌水分はやや乾燥気味とし、収穫が始まったら灌水量を増やす。 摘葉 定植後1ヶ月見らずで摘芯となる。側枝は第5節まで摘除する子蔓と孫蔓は1節止めとする。まとめ摘み、強摘芯を避ける。この作型は生育とともに弱光期に移るので、若い葉に光が当たるように摘葉する。主枝の収穫が終わる、側枝の雌花が開花したら、10日おきに2～3枚を限度に老化学を摘除する。 追肥 成りぐせをつけてから定期的に施すようにする。時期的には収穫が始まって間もなくの頃に第1回の追肥を行う。 目安としては、500～600kg収穫/10a毎に窒素成分で1kg/10aで行う。</p> <p>温度管理 生育初期は高温期にあたるので、ハウスの側面や裏面のビニールをはがして風通しをよくするが、ウイルスに感染しやすい時期でもあるので寒冷紗などを張ってアブラムシの侵入を防ぐ。高温期は昼温30℃以下を目標に、夜間は放任とする。10月下旬には暖房の準備をし、11月にはカーテンを設置する。最低温度が15℃以下になったら夜間の換気をやめ、10℃以下になったら暖房を開始する。</p>												<p>6.病虫害防除 (平成19年6月現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象病虫害</th> <th>使用農薬名</th> <th>適正使用基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">褐斑病</td> <td>スミブレンド水和剤</td> <td>1500～2000倍・前5回</td> </tr> <tr> <td>ジマンダイセン水和剤</td> <td>600倍・前3回</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">うどんこ病</td> <td>トリフミン水和剤</td> <td>8000～5000倍・前5回</td> </tr> <tr> <td>ベルコート水和剤</td> <td>2000～4000倍・前5回</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">べと病</td> <td>リドミルMZ水和剤</td> <td>1000倍・前3回</td> </tr> <tr> <td>ホライズンドライフロアブル</td> <td>2500倍・前3回</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">灰色かび病</td> <td>ランマンフロアブル</td> <td>1000～2000倍・前4回</td> </tr> <tr> <td>グッター水和剤</td> <td>1500倍・前5回</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ハダニ類</td> <td>フルピカフロアブル</td> <td>2000～3000倍・前4回</td> </tr> <tr> <td>ピラニカEW</td> <td>2000～3000倍・前1回</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コナジラミ類</td> <td>パロックフロアブル</td> <td>2000倍・前1回</td> </tr> <tr> <td>ベストガード粒剤</td> <td>1～2g/株・定植時1回</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">アブラムシ類</td> <td>トレバンEW</td> <td>1000倍・前日/3回</td> </tr> <tr> <td>チェス水和剤</td> <td>3000倍・前3回</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">アザミウマ類</td> <td>アドマイヤー水和剤</td> <td>2000倍・前3回</td> </tr> <tr> <td>スタークル顆粒水溶剤</td> <td>2000倍・前日/2回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ハチハチ乳剤</td> <td>1,000～2,000倍 前日/2回</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">適正使用基準: 収穫前日数/回以内</p>									対象病虫害	使用農薬名	適正使用基準	褐斑病	スミブレンド水和剤	1500～2000倍・前5回	ジマンダイセン水和剤	600倍・前3回	うどんこ病	トリフミン水和剤	8000～5000倍・前5回	ベルコート水和剤	2000～4000倍・前5回	べと病	リドミルMZ水和剤	1000倍・前3回	ホライズンドライフロアブル	2500倍・前3回	灰色かび病	ランマンフロアブル	1000～2000倍・前4回	グッター水和剤	1500倍・前5回	ハダニ類	フルピカフロアブル	2000～3000倍・前4回	ピラニカEW	2000～3000倍・前1回	コナジラミ類	パロックフロアブル	2000倍・前1回	ベストガード粒剤	1～2g/株・定植時1回	アブラムシ類	トレバンEW	1000倍・前日/3回	チェス水和剤	3000倍・前3回	アザミウマ類	アドマイヤー水和剤	2000倍・前3回	スタークル顆粒水溶剤	2000倍・前日/2回		ハチハチ乳剤	1,000～2,000倍 前日/2回
	対象病虫害	使用農薬名	適正使用基準																																																																												
褐斑病	スミブレンド水和剤	1500～2000倍・前5回																																																																													
	ジマンダイセン水和剤	600倍・前3回																																																																													
うどんこ病	トリフミン水和剤	8000～5000倍・前5回																																																																													
	ベルコート水和剤	2000～4000倍・前5回																																																																													
べと病	リドミルMZ水和剤	1000倍・前3回																																																																													
	ホライズンドライフロアブル	2500倍・前3回																																																																													
灰色かび病	ランマンフロアブル	1000～2000倍・前4回																																																																													
	グッター水和剤	1500倍・前5回																																																																													
ハダニ類	フルピカフロアブル	2000～3000倍・前4回																																																																													
	ピラニカEW	2000～3000倍・前1回																																																																													
コナジラミ類	パロックフロアブル	2000倍・前1回																																																																													
	ベストガード粒剤	1～2g/株・定植時1回																																																																													
アブラムシ類	トレバンEW	1000倍・前日/3回																																																																													
	チェス水和剤	3000倍・前3回																																																																													
アザミウマ類	アドマイヤー水和剤	2000倍・前3回																																																																													
	スタークル顆粒水溶剤	2000倍・前日/2回																																																																													
	ハチハチ乳剤	1,000～2,000倍 前日/2回																																																																													